

## 第1 計画策定の趣旨

- 平成25年伊豆大島土砂災害における被災地域のうち、メモリアル公園の区域外である神達・丸塚エリア等の土地利用について、様々な視点から検討するため、平成27年9月に「元町地区復興まちづくり土地利用検討部会」を設置

## 第2 被災地域の安全性の確保について

### ハード対策

「伊豆大島土砂災害対策検討委員会」の提言を受け、東京都にて対策を実施

- ① 応急対策：本川堆積工嵩上げ、仮設導流堤（左支川）の整備 【H26. 5 完成】
- ② 短期対策：左支川導流堤の整備、左支川斜面対策工 【H26～H28】
- ③ 中長期対策：右支川斜面対策工、導流堤の整備、砂防えん堤の新設 【H29～】
- ④ 既設流路の改修：屈曲部の改修及び管理用通路の設置

⇒ 100年超過確率規模（24時間雨量751.9mm）の降雨に対応可能

### ソフト対策

想定を上回る災害の発生に備え、東京都と大島町でソフト対策を実施

- ① 土砂災害防止法に基づく基礎調査の実施、警戒区域等の指定（東京都）
  - ② 警戒避難体制の整備（大島町）：  
東京都の警戒区域等の指定に基づき、警戒避難体制を整備、ハザードマップ作成
- ⇒ ハード対策の進捗により、当該地域は土砂災害特別警戒区域は解除される見込み

## 第3 上位計画等から見た被災地域の位置づけ

- 「大島町都市計画マスタープラン」  
⇒今後のまちづくりの方向性、当該地区の土地利用の方針を示す
- 「大島町復興計画」で定めた土地利用の基本方針  
⇒被災した土地の利用方針を示す
- 町長が優先する「3つの取組」  
⇒安全な暮らし、将来にわたる仕事、安心な生活環境を創ること
- 「大島町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」の基本目標

- 地理的条件から見た神達・丸塚地区の位置づけ

- ① 島全体から見た位置づけ  
⇒岡田港と波浮港をつなぐ縦のライン、元町港と三原山をつなぐ横のラインが交差
- ② 元町地域内から見た位置づけ  
⇒商業地域から徒歩圏内、住宅地に隣接
- ③ 個別条件から見た位置づけ  
⇒小学校に近い、町道整備によりアクセス向上、被災土地

### 神達・丸塚地区（公園区域外）の特徴

- ① 島民が集い、交流する場としてふさわしい
- ② 観光客が立ち寄る観光の拠点としてふさわしい
- ③ 島民と観光客が交流する場としてふさわしい
- ④ 図書館を中心とした文教エリアとしてふさわしい
- ⑤ 防災教育の拠点としてふさわしい

- 「（仮称）大島町メモリアル公園基本計画」の基本的な考え方

- ① メモリアル公園のコンセプト
- ② 公園づくりの方向性
- ③ 公園を構成する4つの基本機能  
・防災教育機能 ・地域振興機能  
・環境・景観形成機能  
・レクリエーション機能

## 第4 神達・丸塚地区の土地利用の方向性

### 土地利用の方向性

- ① 神達・丸塚地区（公園区域外）  
⇒町民や観光客、子どもからお年寄りまで、人々が集い、交流する場所として利用
- ② 大金沢1号線・2号線沿線  
⇒神達・丸塚地区への人の流れ（賑わい）を創出し、住宅や商店の建設を誘導

神達・丸塚地区（公園区域外）に配置する4つの機能

- ① 行政・福祉機能
- ② 学習機能
- ③ 産業機能
- ④ 観光レクリエーション機能

### 神達・丸塚地区（公園区域外）にふさわしい施設

#### ① 文教・福祉ゾーン

##### 【当該エリアの特色】

- ・ 大島町立つばき小学校から近く、住宅地に隣接したエリア
- ・ 町道大金沢1号線・2号線の整備により、元町中心部のアクセスもより近くに感じられるようになるため、町民が利用する文教福祉の整備に適したエリア

⇒ 老朽化した図書館や保育園を整備するとともに、教育委員会や子供家庭支援センター等を集約することにより、教育・福祉分野が一体となった支援を行う

#### ② 産業振興ゾーン

##### 【当該エリアの特色】

- ・ メモリアル公園に隣接したエリアであり、観光の拠点として利用することに適したエリア

⇒ 観光を中心とした地域振興の拠点として、産業振興及び6次産業を図るエリアとして利用

## 第5 今後の方針

- 元町地区復興まちづくり（メモリアル公園整備や大金沢1号線、2号線の整備）に合わせて、神達・丸塚地区（公園区域外）の整備を具体化していく

元町地区復興まちづくり計画と丸塚・神達エリアの土地利用の方向性

